

2012 年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	商学部	身分	准教授
氏名	砂川 和範		
NAME	Kazunori SUNAGAWA		

1. 研究課題

(和文) 連携不全の論理—産学官の重合領域における組織間関係の探究

(英文) Industry-governement-university alliance management from the perspective of its systematic failure analysis.

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

(和文)

産学官の連携を、とりわけその連携戦略の機能不全に求め分析することを試みた。
 問題設定と方法の選択の背景には周到に考えられた研究構想があるため、最初に二点指摘しておく。まず①既存理論の検証よりも独自の概念装置を駆使して理論を産出することに多くの労力が割かれている。実務家が関心を持ちやすいケースに象徴される<具体的な状況とコンテキストのなかでの特殊解>と、研究者が関心を持ちやすい<演繹的で抽象度の高い一般解>の間に横たわる深い溝を与件とせず、その懸隔を自らの中にかかえながらすり合わせていく作業こそが一般戦略論を彫琢していくことの本質を見ているゆえである。つぎに、②なぜ明快な問題設定に一見迂遠な方法で接近するのか。その答えは、既存の戦略研究の多くが、現象の本質に不適格な方法を用いたため擬似問題に陥り、分析上の袋小路に迷い込んでいるという明確な問題意識にあるそこにある3つの基本的性質（①「非合理性」、②「非可分性」、③「非可逆性」、以下、この3つを「三位一体」と略。）を踏まえ、その捉えがたさを徹底的に意識する態度である。対象の秩序原理に誠実であれば、①「非合理性」については、既成軌道の打破（逸脱や例外）こそが重要となるため一般法則の定立や単純系での近似が適さないこと、②「非可分性」については、戦略が分業を統合するための概念であるため、標準化・マニュアル化されざる残余領域を含まざるをえず一般的な規範論にはならないこと、③「非可逆性」については、戦略というものが、事前の合理性と事後の合理性の懸隔を抱えながら時間的展開のなかで、しかも具体的状況に埋め込まれ展開すること、そのため形式論理で記述できないこと、である。以上の3点を踏まえ、法則性の把握による制御ではない方法がとられる。具体的には分析対象を、二つの「外堀を埋めていく」方法で追い詰める。まず①「内容の特定」よりも、「機能する条件」に重点をおく、②成功事例を積み上げ、共通の決定要因を帰納的に抽出するのではなく、また成功要因の欠如から「失敗の本質」を語るのでもなく、「不全のもつ固有の因果メカニズムを理解する」という逆説的論理から検討する。これは、問題意識から遡及的にメカニズムを分析する逆因果の方法（<方法としての歴史>）である。悪循環の把握とプログラムの改変という再帰的過程を通じた制御可能性を狙う方法といえる。分析はまだ継続中であり、成果を発表する段階にはない。ここで暫定的な報告となってしまふことを報告する次第である。

The purpose of this research is to examine industry-governement-university alliance management from the perspective of its systematic failure analysis. This method is popular in the field of STS study, Introducing it to management study will bring us many insights.

Case study is effective when theory fails to e0xplain. not theory-applied field simply. Innovation as a breakthrough is a kind of entrepreneurship, not theoretic thinking but case theoryis suitable

4. おもな発表論文等 (予定を含む)

【学術論文】(著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月)

経営学を二段階準備中。

【学会発表】(発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月)

【図 書】(著者名、出版社名、書名、刊行年)

柳三才学術出版社 単著『現代経営学』

【その他】(知的財産権、ニュースリリース等)